

4/10 木

看護師ら8割「感染の恐怖」

新型コロナウイルスの感染拡大に伴う影響につれて、全国の病院などで働く看護師の約8割が感染への恐怖や不安を挙げていることが9日、日本看護協会（東京都渋谷区）の調査で分かりました。差別や偏見を指摘した人も約2割に上りました。

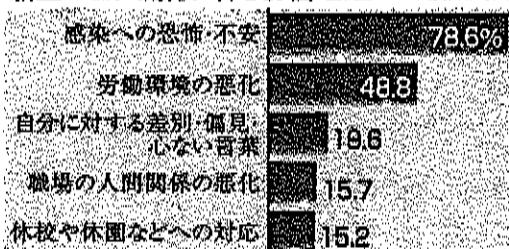
同協会は昨年秋、会員にインターネット調査を行い、約1100人から回答を得ました。有効回答率は34・0%。回答者

は平均41・3歳で、女性が93・5%。看護師が86・6%、ほかは助産師や感

染への恐怖・不安
労働環境の悪化
自分に対する差別・偏見
心ない言葉
職場の人間関係の悪化
休校や休園などへの対応

（日本看護協会の調査より）

新型コロナ流行に伴う影響（上位五つ、複数回答）



協会調査 2割が差別・偏見経験

保健師などでした。新型コロナ感染者は日本では2020年1月に初確認されました。調査では20年3月～21年9月を振り返り、流行の影響を複数回答で質問。78・6%が自分自身の感染への恐怖や不安を挙げたほか、職場の労働環境悪化が48・8%、自分に対する差別や偏見が19・6%に上りました。これらの割合は、コロナ対応に従事したの方が高い傾向が出ました。

疲れ感じる」も56・8%に上りました。不安やいらぐ感を訴える人も50%近くいました。「看護職員として働き続けた」とした人は「割近くに上る一方、20代は55・6%で最も低くなりました。

同協会は「長期感染症対応が健康状態に長期的に影響を与えると考えられる。調査結果を基に、働き続けられる職場づくりに取り組みたい」と分析しています。

「生活に充実感や楽しみがない」と答えたのは64・5%で、「いつも体が

疲れてくる」も56・8%

に上りました。不安やいらぐ感を訴える人も50%近くいました。「看護

職員として働き続けた」とした人は「割近くに上る一方、20代は55・6%で最も低くなっています。

同協会は「長期

感染症対応が健康状態に長期的に影響を与えると考えられる。調査結果を

基に、働き続けられる職場づくりに取り組みたい」と分析しています。